

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	生徒指導論 (小学校)		
担当者(Instructors)	石井 尚	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	1	必修・選択(Required / selection)	選択

<p><b>■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)</b></p> <p>いじめや不登校、暴力行為などの生徒指導上の諸問題に関して法令内容の基礎知識を踏まえながら、発達段階に即した児童・生徒理解のための基礎知識を習得するとともに、学校での集団指導と個別指導の方法原理さらには生徒指導体制と教育相談体制を理解する。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p><b>■ 授業形態・授業の方法 (Class form)</b></p>	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式および小集団のディスカッションによるグループワークをおこない、小学校における生徒指導の課題について、幅広い視点からの理解を図る。毎回の授業の最後に小レポートを作成し、次の授業の最初にその回の内容に関するディスカッションをおこないながらテーマについての理解を深める。

<p><b>■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)</b></p>			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	教育課程における生徒指導の意義と原理	教育課程における生徒指導の位置づけを理解し、生徒指導の意義と原理を学びながら生徒指導がどのような経緯で展開してきたかを検討する。	<input type="checkbox"/>
第2回	児童・生徒理解の原理と青年前期を中心とする発達段階	児童・生徒理解にとって、その発達過程を知ることが最も重要であり、児童期から青年前期への変化を分析する。	<input type="checkbox"/>
第3回	生徒指導における教師－生徒の関係	生徒指導においては子どもと教師の関係が大切であり、子ども理解を深めようというラポールづくりについて学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第4回	児童・生徒の問題行動と指導法 (1) 不登校	不登校の概念とその歴史について理解したうえで、さまざまな不登校への対処法について、事例から検討する。	<input type="checkbox"/>
第5回	児童・生徒の問題行動と指導法 (2) ネットいじめ	いじめの概念とその歴史について理解したうえで、具体的なネットいじめ問題の検討を通して、いじめの早期発見・早期解決法を習得する。	<input type="checkbox"/>
第6回	児童・生徒の問題行動と指導法 (3) 非行	非行の概念とその歴史について理解したうえで、具体的な非行の事例を通して、非行防止と非行克服の諸方法について学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第7回	生徒指導の校内組織体制と校則・懲戒	生徒指導体制は校務分掌や学校全体の協働による仕組みや機能であることを理解したうえで、校則や懲戒について検討する。	<input type="checkbox"/>
第8回	児童・生徒支援のための保護者・地域との連携とスクールソーシャルワーク	スクールカウンセリングと比較しながらスクールソーシャルワークの方法を理解し、学校を地域全体で支援する新たな体制について学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第9回			<input type="checkbox"/>
第10回			<input type="checkbox"/>
第11回			<input type="checkbox"/>
第12回			<input type="checkbox"/>
第13回			<input type="checkbox"/>
第14回			<input type="checkbox"/>
第15回			<input type="checkbox"/>

<p><b>■ 授業時間外学習 (予習・復習) の内容 (Preparation/review details)</b></p> <p>毎回の授業の最後に課題を出し、小レポートにまとめて提出する。その課題解答に関連した事後学習を2時間程度おこなう。授業の最後に次のテーマに関するテキストの該当ページを予告し、事前に目を通すことで2時間程度の事前学習を促す。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回の小レポートについて、次回の冒頭で全体的な傾向と、典型的な小レポートを紹介し、討議の題材にする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	生徒指導の意義や原理を理解し、すべての児童を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。さらに個別の問題を抱える生徒指導上の課題について、養護教諭や外部の専門家、関係機関など学校内外との連携も含めた対応のあり方を理解することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	生徒指導の教育的位置づけを明らかにし、具体的な指導方法を提示することができる。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	主体的な実践を通して、実際の生徒指導の検討と現実的課題を探究することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			10%	90%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

1回から7回の課題小レポート：10点×7回=70点、授業内試験：10点、最終回レポート：20点

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「生徒指導提要」(令和4年12月 文部科学省)	978-4-491-05175-8
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「小学校学習指導要領」(平成29年3月告示 文部科学省)	978-4-491-03460-7
2	他の参考書はそのつど紹介し、参考資料は必要に応じて随時配布する。	
3		
4		
5		